

世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト

事業報告書

事業名:世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト

実施者:世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト実行委員会

代表 勝連盛豊

目的

- 一 沖縄の豊かな文化を世界へ発信する。
- 二 沖縄の優れた文化を子供たちへ伝え、誇りと夢を持たせる。

なぜ世界に類を見ない世界のウチナーンチュ大会が開催できるのか。なぜ海外の沖縄県人会は100年も、120年も経ち、他府県の県人会が消滅する中、存続するのか。

世界のウチナーンチュ大会を支えているのは海外の沖縄県人会であり、県人会を支えているのは2, 3世、次世代の若者たちである。

海外の沖縄県人会が今日あるのは、次世代をつなぐ世界に誇る空手をはじめ、三線、琉球民謡、琉球舞踊、エイサー、組踊、紅型などの豊かな文化が、次世代の若者たちを県人会へ引き付ける要因となっている。

移民とともに海を渡った沖縄の文化は、世界の移住地の文化と溶け合って新たな生きづかいを伝えているが、しかし3, 4世の時代になると世代交代が始まり、当地に同化が進み、沖縄伝統文化の継承が正念場迎えている今日、今後どう継承していくか移民社会の課題となっている。

目的遂行に至る経緯

「世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト」は、今年で11年目を迎えた。海外の県人会へ毎年三線を10丁贈り、今年で129丁を贈ることができた。三線はすべて県民からの寄贈である。

贈呈国は、2014年ドイツ沖縄県人会から始まり、フィリピン、ロサンゼルス、ブラジル、ペルー、ボリビア、ハワイ、カナダ(トロント、バンクーバー、カルガリー)、在沖縄ミャンマー人会、フランス、トルコ、スイス。

10年の歩み

2014年4月 5日 世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト設立。

7月21日 RBCi ラジオスペシャル「海を渡る～さんしん」ドイツとの衛星放送。

2014年 ドイツ沖縄県人会 10丁。第3回世界若者ウチナーンチュ大会ドイツにおいて贈呈。

2015年 フィリピン沖縄県人会 10丁。第4回世界若者ウチナーンチュ大会フィリピンにおいて贈呈。

2016年 ロサンゼルス・北米沖縄県人会 5丁。ブラジル・うりずん会へ5丁を第6回世界ウチナーンチュ大会において贈呈。

2017年 ペルー沖縄県人会 10丁。第6回世界若者ウチナーンチュ大会ペルーにおいて贈呈。

2018年 ボリビア沖縄県人会 15丁。沖縄県人ボリビア移住110周年記念祭において贈呈。沖縄ボリビア協会(伊佐仁会長)

2019年 ハワイ沖縄連合会 10丁。ハワイ県人移民120周年記念祭のため来県した糸村ジョーン昌一専務理事へ中城村吉の浦会館において贈呈。

2020年 フランス・沖縄欧州文化連合会15丁。コロナ発生のため渡欧できず2022年第7回世界のウチナーンチュ大会において贈呈。

2021年 在沖縄ミャンマー人会 10丁。糸満市新川公民館において贈呈。

2022年 カナダ・バンクーバー沖縄県友愛会10丁。第7回世界のウチナーンチュ大会において贈呈。

2023年 スイス 5丁。ハン・エマヌエルへ、うるま市勝連平敷屋において贈呈。

トルコ 10丁。トルコ日本国大使館公使岩佐敬昭へ、うるま市儀保弘民謡研究所において贈呈。

2024年 7月26日 公益財団法人おきぎんふるさと振興基金助成金認証。

7月27日 RBCi ラジオスペシャル「世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト」放送。

8月11日 10周年記念事業 パリ沖縄祭り派遣資金造成公演&現代の名工 又吉章盛の世界・三線展 うるま市民劇場:響ホール。

8月23日 NHK「国際報道2024」。チャンネル BS1、トルコ放映「NHKワールド」。

10月5日 フランス 10丁。10月3日～10日パリ・沖縄祭りへ、現代の名工(三線工)又吉章盛、勝連盛豊、山城艶子、又吉采也、鈴木信招待派遣。久高泰子フランス沖縄県人会会長へ贈呈。

(令和6年海外県人会活動支援事業)

10月30日 NHK おきなわホットアイ「パリ・沖縄祭り」放映。

11月27日 NHK おきなわホットアイ「トルコへ咲く三線の花」全国放映。

11月28日 うるま市海外移住子弟研修生 安慶名ジオゴ昭夫、照屋セリネ
ゆみへ三線2丁贈呈。

2025年 1月28日 QAB 琉球朝日テレビ放映。

2月1日 スイス沖縄芸能調査団2名 リヴィア・ケルン(ダンス教師・振付
師)、レモ・シュルupp(映像作家・アーティスト)へ三線2丁贈呈。

三線寄贈関連記事 ドイツ



フィリピン日系新聞



ブラジル うりずん会



フランス



ペルー



ボリビア



カナダ



スイス



ミャンマー



三線贈呈国の活動報告 2014年 ドイツ沖縄県人会



RBCi ラジオスペシャル

「海を渡る～さんしん」 衛星放送ドイツ
ドイツ沖縄県人会崎原永人会長へ三線10丁贈る。

2015年 フィリピン沖縄県人会



フィリピンは戦後、反日感情を恐れ県人子弟に日本語を教えてこなかった。

子弟たちは自らのルーツや沖縄の文化芸能も知る由もなかったところへ、三線10丁が贈られ、一世の方は涙を流して喜んだ。

2016年 北米沖縄県人会



三線の日、学校行事、地域行事での三線演奏は大変喜ばれています。

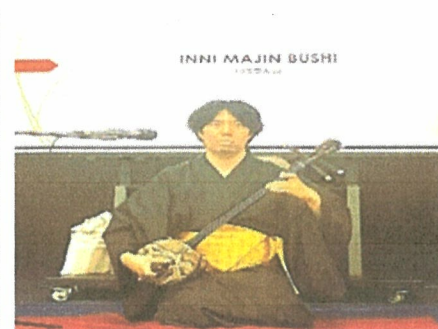
2016年 ブラジル・うりずん会



三線のプレゼントは「うりずん会」の活動目的である沖縄文化の継承と普及に大いに役立ち喜んでいます。

ムイント オブリガード

2017年 ペルー沖縄県人会



三線の音は心の音

三線は100年前に初期移民によってもたらせ困難時代でも、彼らに安らぎと平和をもたせました。三線は一時途絶えましたが、皆さんから贈られた三線でペルー全土に響渡せます。

2018年 ボリビア沖縄県人会



伝統継承は正念場を迎える

世代交代が進み、ボリビア社会との同化は避けられず、伝統継承は正念場を迎えているところに「世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト」から三線10丁が贈られ、再び子供たちに三線を教えることができて大変喜んでいました。

2019年 ハワイ沖縄連合会



三線は平和の象徴

三線は移住地で過酷な労働に耐え、生活基盤を築いてきた一世の心を癒した平和の象徴。

2020年 沖縄欧州文化連合会



フランス全土では、いたるところで三線愛好者が集まり、小さなクラブを結成し、三線演奏の風景が見られます。

2021年 在沖縄ミャンマー人会、



母国の思いを三線に乗せて平和を訴える。

皆様から贈られた三線によって沖縄の若者たちと交流の場が広がりました。

2022年 カナダ県人連合会 トロント球陽会



三線の音色はウチナーンチュの心が安らぎます。

カナダ・バンクーバー県友愛会



沖縄県の芸能指導者派遣事業や支援が増えれば大変ありがたい。

カルガリー沖縄県人会



多くの三線プレゼントありがとうございました。

イベントでの三線演奏はみんなから喜ばれています。

2023年 トルコ日本基金



三線教室は沖縄の儀保弘師匠とオンラインで繋ぎ稽古しています。

2023年 スイス・エマ三線愛好会



平敷屋エイサーは「形や所作、柔らかさなどきれいな演舞で、わたくしが求めているものだ。

ハン・アマヌエル

成 果

- 1 海外の沖縄県人会及び団体へ 三線129丁贈呈。
- 2 2024年パリ沖縄祭りへ招待を受けて、現代の名工(三線工)又吉章盛と弟子2人による琉球古典音楽の演奏、指導、三線歴史講話、三線のメンテナンスなどのワークショップは好評を博す。
- 3 おきぎんふるさと振興基金助成金により本プロジェクトの10年間の活動をまとめ、海外の沖縄県人会及び各団体・関係機関へ配布することができ、また、三線贈呈国の10年間の活動状況を知ることができた。
- 4 三線のメンテナンス、三線ケース、弦、バチ(駒)糸巻などの付属品の補充や燃料費、事務費、印刷費などの経費充実に余裕ができた。

これからの取り組み

- 1 フランス国立音楽楽器博物館三線奉納運動
琉球王朝から伝わる三線7つの型 真壁型、与那城型、南風原型、知念大工型 平仲知念型、久場春殿型 久場ぬ骨型を三線の原木(黒木クルチ100年もの)から現代の名工 又吉章盛製作により寄贈予定。
 - 2 三線1000万円基金の設立
 - 3 海外移住者子弟研修生支援
 - 4 3月4日を世界三線の日推進
 - 5 オンライン世界三線広場祭り
 - 6 三線のユネスコ登録
 - 7 三線工 重要無形文化財保持者の認定
- ※ 三線文化が消えない限り、海外の沖縄県人会は200年、300年と存続し、また世界のウチナーンチュ大会も継続発展すると考える。

※海外の人たちの沖縄文化に対する関心の高さを感じ、沖縄文化の魅力を正しく発信する必要がある。

※「生活の中に息づいてこそ伝統文化は継承される」。子供たちが楽しみながら沖縄文化に触れる機会を数多く提供する。

※子供たちが世界に誇る空手や三線、琉球民謡、琉球舞踊、エイサー等どれか一つを身につければ海外に行っても動じることはない。

課 題

私たちの活動はいたってシンプル。マスコミへ使用してない三線寄贈願いを発して、三線を集め、世界へ贈るシステムである。

集まる三線は様々で本革、人工革あり、革が破れたもの、弦がとれたもの、棹に傷がついたものはメンテナンス修理・修繕費が必要である。

我々の活動は1円の予算もなく、すべて人々の善意で活動を10年間進めてきた。

組織が不安定で、毎年思うことは、今年は三線集まるだろうかの不安である。

今後、本プロジェクトを継続するためには県や関係団体の支援を得て確固たる組織をつくりが必要である。

10 周年記念誌発送先

1 三線寄贈者

2 海外の沖縄県人会

3 県内の機関・団体

県知事、沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課

市町村会、

オキナワコンベンションビューロ、

世界若者ウチナーンチュ連合会

うるま市内主要団体

(市役所、教育委員会、自治会長会、市内小中高校、図書館)

5 パリ沖縄祭り資金造成出演者、協賛団体

6 その他

世界の兄弟へ三線を贈るプロジェクト実行委員会

代表 勝連盛豊

委員 東原清信 具志堅興市 宮城仁希 親田政利 玉築政昭 野島大源

下謝名正孝

協力 又吉章盛 山城艶子 又吉采也 松田 茂